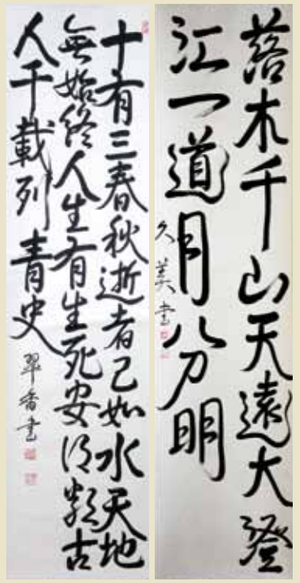
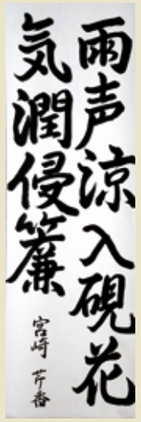
宮野
習字教室

和気あいあいと習字を楽しんでいます





大人6名、子ども12名の習字教室です。大人は毎週金曜日の19時から22時、子どもは毎週火曜日の15時から17時に練習しています。大人はティータイムを挟んで、和気あいあいと楽しみながら書いています。

大人5名は10年以上の経験者で、五段を習得しています。子どもたちには、書くことだけでなく、靴を揃えることや挨拶することなど、生活面のことも指導しています。

「継続は力なり」皆さんもご一緒に習字を楽しみませんか。

●問い合わせ先
宮野和子さん　TEL22－6934

大平
俳画教室

俳画教室で楽しく学習しています

花鳥風月山水等、季節に合った画材を選びサッと画いていく、無心に時の経過も忘れ楽しい時間を過ごしています。

現在会員11名、講師中尾直美先生の御指導を受け、毎月一回、たいへいの里研修室で楽しく学習しています。

私たちの教室は、平成12年7月に大平村文化協会の一サークルとして、川崎秋月先生（中津市角木）を講師に会員30名で発足いたしました。

平成20年に川崎先生が難病で倒れ、しばらく自主練習を続けていましたが、会員の熱意により、翌年3月、中尾先生を講師に迎え再発足いたしました。

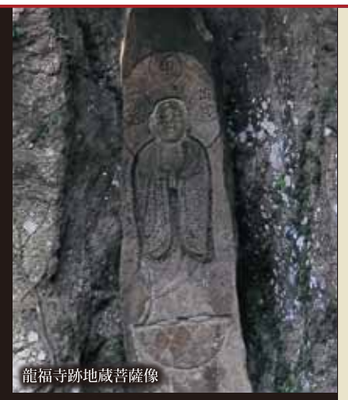
俳画を色紙に、絵手紙をハガキに画き、毎年、町の文化祭で作品を発表しています。

同好の方を募集しています。月会費500円、第四月曜日の9時30分にたいへいの里へおいでください。お待ちしております。

●問い合わせ先
石川信哉さん　TEL72－2210

上毛風土記 Vol 61

地蔵信仰と修験道



龍福寺跡地蔵菩薩像

町内にある仏像の中で、最も数が多いのは地蔵菩薩像です。町内の仏像総数の五分の一を占めるほど私たちに身近な存在です。他の仏像数を圧倒する地蔵菩薩、これは上毛町に限ったことではなく全国的にみられます。それも大切にお堂に祀られているのではなく、寺院の境内や道端、墓地の入口など屋外に安置されています。屋外にあることから、多くは石仏であることも他の仏像と異なる点です。道端や墓地との境界になぜ地蔵が立っているのかについては、もともとは、災厄や悪霊・疫病などの地区内への侵入を遮断するため結界を守っていた塞の神や道祖神が、次第に仏教的に変容して、地蔵を祀ることに替わったのではないかともいわれています。

地蔵菩薩は極楽と地獄の間を行き来して、地獄に堕ちた人々を救う仏であるという話は以前（広報2009年7月号）紹介しました。では地蔵信仰はいつ頃から始まったのでしょうか？

十世紀（平安時代中期）に空也上人が現れ、浄土信仰が民衆の間に広まりました。浄土信仰とは阿弥陀仏が中心となっている極楽浄土世界へ往生（往き生まれる）することを願う信仰です。浄土信仰が盛んになるにつれて、極楽浄土の対極にあるものとして地獄という思想が生まれました。現世で優雅な生活を送っている貴族層と違い、庶民は苦しい生活の中に身を置いていました。現世でさえ苦しいのに、来世までも地獄に落ちて苦しみたくないという願いが強まりました。庶民にとって地獄で救いをもたらしてくれる地蔵菩薩は頼りになる存在でした。平安時代末頃に成立したとみられる「今昔物語集」には、地蔵菩薩の力によって地獄から生還することができたという説話が残されています。

一方、浄土信仰を最も深刻に受け止めていたのは武士達でした。特に中世の武士達は戦に継ぐ戦の連続で、多くの殺生を繰り返しています。死に対して「明日は我が身」死後は地獄へ堕ちるという恐怖から、地蔵に対する信仰が盛んになります。「今昔物語集」や「太平記」などには地蔵が戦場に現れて武士を救う説話が残されています。

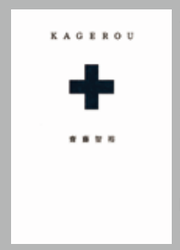
さて、修験道と地蔵菩薩の融合は、鳥取県の大山にあった山岳信仰が最も古いようです。大山は平安時代から続く地蔵菩薩を本地仏（仏としての本来の姿）とした山岳信仰の道場で、ここを行場とした修験者達は、地蔵菩薩を蘇生や延命を司る仏として篤く信仰しました。修験者達が山を下りて里で活動・交流する際に、地蔵信仰も民衆の間に広まりました。さらに、修験者の交流を通じて、同じ山岳信仰の道場となっていた、京都の愛宕山へと地蔵信仰が持ち込まれました。愛宕山では地蔵信仰が結びつくことにより、神仏習合の神として「愛宕権現」が成立、その本地仏として勝軍地蔵が信仰されるようになりました。地蔵が勝軍地蔵に替わった理由として、疫病や災厄などが外部から侵入することを防ぐという塞の神の性格に、都城などを守護する将軍のイメージを重ねたのではないでしょうか。

江戸時代になると愛宕権現は各地へ勧請され、武士にとっては軍神、庶民にとっては火伏・防火の神として信仰されるようになりました。松尾山医王寺があった尾根の先端に建つ愛宕堂にも愛宕権現が勧請され、本地仏として勝軍地蔵が祀られています。これは修験者が檀家をまわって火伏せの祈祷札を売り歩いたことなどから、災厄を断ち防火に御利益のある勝軍地蔵を信仰したものと考えられます。さらに、蘇生や延命を司る地蔵信仰にこの地域の修験文化が結びつき、松尾山の麓の集落へ地蔵信仰が広まったと考えられます。

総合窓口課文化財保護係　末永浩一

図書館だより

げんきの杜図書館
TEL 72-1633



廃墟と化したデパートの屋上遊園地のフェンス。「かげろう」のような己の人生を閉じようとする、絶望を抱えた男。そこに、突如現れた不気味に冷笑する黒服の男。命の十字路で、二人はある契約を交わす。哀切かつ峻烈な「命」の物語。

『KAGEROU』
齊藤智裕　ポプラ社

だって気になるじゃない、死んだ後のこと。そろそろ人生もフィナーレかと感じてはおりますが、「お焼香はいい男順で」「お墓参りは来なくて結構」・・・・まだまだ言いたい放題！希望と笑いあふれるパワフル遺言エッセイ。

『人生の終いじたく』
中村メイコ　青春出版社

新着

激変！日本古代史	足立倫行（あだちのりゆき）	朝日新聞出版
体脂肪計タニタの社員食堂（初巻、続巻）	タニタ	大和書房
はじめてでも勝てる囲碁入門	石倉昇	PHP研究所
傾（カブキ）物語	西尾維新	講談社
作って楽しむ　つるし雛		誠文堂新光社

環境ポスター入選作品

西吉富小４年
久恒　未有

南吉富小　６年
吉川　美佐

環境標語入選作品

すてないで　地球の未来を　守るため
西吉富小４年　黒川　流那

ゴミの中　大事な資源　かくれてる
築上東中学校２年　永元　美早